

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
全世代型子育て支援	帯山に住んでよかったな 住んでみたいまち帯山	高齢者・障がい児者について	高齢者の孤立防止や社会参加、健康や体力維持に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・人との接触を好まない高齢者への声掛けが難しい。 ・生活意欲が向上するような趣味や楽しみを持たない高齢者が多い。 ・移動手段の確保が難しい。 ・新規参加者への声掛けが難しい。 ・男性の参加者が少ない。 ・身近に集える場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえりあ帯山との連携（サロン等での体力測定、専門職による講話） ・地域でのサロン、元氣くらぶなどの地域の通いの場の活用。 ・顔見知りの方同士での声かけ。 ・送迎サービスの検討。 ・サロンの効果を発表する場所の検討。（ささえりあ・行政との連携） ・定年退職前からの地域との関りをつくる。（セミナー開催、夫婦での参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会活動で顔見知りをつくる。 ⇒サロンの参加に繋げる。 ・サロン活動の継続と活動内容の工夫。 ・移動手段・場所の確保についての検討。 ・空き家の活用を検討。
			高齢者の生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出機会が減少し体力維持が難しい。 ・危険な運転をしている高齢者を見かける。 ・庭の除草が難しい高齢者がいる。 ・マンション住民の情報収集、関係構築が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3校区（託麻原、帯山、帯山西校区）合同地域ケア共同推進会議の活用。 ・お互い様のまちづくり研修会への参加。 ・地域でのサロン、元氣くらぶなどの地域の通いの場の活用。 ・熊本市お買い物サポート便利帳の活用。 ・マンション管理人との関りを作る。 ・マンション内に民生委員・自治会役員を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえりあとの連携を図る。 ・移動販売車の活用。 ・地域のお助け隊の立ち上げについて検討。
			認知症高齢者に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題があり認知症高齢者に関する情報把握が難しい。 ・自分や家族が認知症になったら、という不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえりあ帯山との連携（認知症の事例検討会、認知症サポーター養成講座の活用）。 ・徘徊模擬訓練の実施。 ・警察署やささえりあ、その他関係機関との連携（気になる高齢者についての情報提供）。 ・認知症ケアパスの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を住民向けに開催。
			障がい児・者の情報把握	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいに対する知識が乏しく障がい児・者への接し方が分からない。 ・個人情報の問題があり障がい児・者に関する情報把握が難しい。 ・どう声を掛けて良いか分からない。 ・高齢・障がい者への介入が難しい。 ・引きこもりの方が心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者相談支援センターウィズとの連携（障がいに関する情報提供・啓発活動・当事者との交流） ・「ハートフルサポート育成研修制度」（熊本県事業）や障がい者サポーター養成講座の活用。 ・普段の見守り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいに関する相談先等に関する情報発信。 ・本人・家族から相談があった時の傾聴活動。
		子ども・子育て	子育て家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題があり子ども・子育て家庭に関する情報把握が難しい。 ・個人情報の問題がありひとり親家庭に関する情報把握が難しい。 ・虐待・引きこもり・いじめ・不登校など外部から見つけることが難しい。 ・子どもの遊び場がない。（もしくは少ない） ・ひとり親・共働き世帯に対する支援が必要と感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健子ども課との連携。 ・子育てサロン・集いの場の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンの継続。
		災害・防災	災害時における避難に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の備蓄食料の確保が出来ていない。 ・在宅避難をする場合に情報や支援物資が届くか不安である。 ・校区外の避難所へ避難した際の相談先が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄の必要性について啓発する。 ・「マイタイムライン」の啓発。 ・避難所の周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム帯山」の活用。
		暮らし全般	環境及び地域団体に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練が出来ておらず大きな災害が起きた時の避難に不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常から近隣同士とのコミュニケーションと情報共有がとれるような顔の見える関係づくりを行う。 ・避難所に関する情報収集・周知を行う。 ・関係機関を通して避難訓練への参加呼びかけを行う。 ・緊急時のSNSの活用。 ・防災士の資格取得について呼びかけ。（自治会ですでに実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政・自治会との連携。 ・他団体との協力。（若者世代の取り込み） ・井戸やマンホールトイレ等防災設備に関する周知。
		暮らし全般	環境及び地域団体に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しルールが守られていない。 ・空き家・空き地が増え防犯上危険であると感じる。 ・空き家・空き地の有効活用が出来ないか。 ・様々な団体があるがそれぞれの活動内容が分からない。 ・地域団体役員のなり手がいない。 ・関わる行事の調整役として、自治協が役割を果たせていない。 ・地域行事（子ども会等）への参加が少ない。 ・PTA役員～地域役員への流れが出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関を通して地域の活動やサロンなどへの参加呼びかけを行う。 ・日々の活動の中でのつながりから、空き家・空き地の有効活用について考える。 ・ゴミ出しルールの違反が無い巡回。 ・自治会へ若い人を呼び込む。（出来る行事から少しづつ参加を促し、参加することの楽しさを感じてもらおう。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しルールの意識づけについて、自治会と協力する。